

## 特別公開「雛と雛道具」展示リスト

| NO. | 名称                              | 数量      | 年代      | 所蔵                |
|-----|---------------------------------|---------|---------|-------------------|
| 1   | やちよ ひな<br>弥千代の雛                 | 1対      | 江戸時代後期  | 本館蔵(井伊家伝来資料)      |
| 2   | やちよ ひなどうぐ<br>弥千代の雛道具            | 1揃(85件) | 江戸時代後期  | 本館蔵(井伊家伝来資料)      |
| 3   | まちよ あまがつ<br>真千代の天児              | 1躯      | 江戸時代後期  | 本館蔵(井伊家伝来資料)      |
| 4   | ひなごてんかざ<br>雛御殿飾り                | 1揃      | 昭和時代前期  | 本館蔵(青柳和子氏寄贈)      |
| 5   | ひなごてんかざ<br>雛御殿飾り                | 1揃      | 明治33年   | 本館蔵(山本高嗣氏寄贈)      |
| 6   | ひなごてんかざ<br>雛御殿飾り                | 1揃      | 昭和時代前期  | 本館蔵(尾賀信子氏寄贈)      |
| 7   | ひなだんかざ<br>雛段飾り                  | 1揃      | 昭和時代前期  | 本館蔵(加納基弘氏寄贈)      |
| 8   | こきんびな<br>古今雛                    | 1対      | 江戸時代末期  | 本館蔵(個人寄贈)         |
| 9   | こきんびな<br>古今雛                    | 1対      | 明治時代    | 本館蔵(森嶋美代子氏寄贈)     |
| 10  | こきんびな<br>古今雛                    | 1対      | 江戸時代末期  | 本館蔵(藤野金七・林弥家伝来資料) |
| 11  | こきんびな(つけたり ひなどうぐ)<br>古今雛(附 雛道具) | 1揃      | 昭和6年    | 本館蔵(山岡勢津子氏寄贈)     |
| 12  | ごしょにんぎょう<br>御所人形                | 2躯      | 江戸時代後期  | 本館蔵(井伊家伝来資料)      |
| 13  | まめにんぎょう<br>豆人形                  | 1式      | 大正～昭和時代 | 本館蔵(山田米子氏寄贈)      |

## 写真解説

### 1 弥千代の雛 一对 (作品リストNO. 1)

男雛 高 30.6cm

女雛 高 24.7cm

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

雛段などに立てかけて飾る立雛という種類の雛です。衣装は紙製で、室町時代頃の形式の装束となっており、男雛は小袖と袴を着け、女雛は小袖に細帯を締めています。まるで団子に目鼻をつけたかのような顔は、次郎左衛門雛という雛の形式に則ったもの。あどけない顔立ちが愛らしい一对です。



### 2 弥千代の雛道具 (写真はその一部) (作品リストNO. 2)

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

貝桶や三棚、挟箱など85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模して詠えられました。井伊家の家紋である橘紋と共に、根引きの小松、笹竹、梅枝の様子が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。



#### 弥千代の雛道具のうち 台子皆具

台子は、書院の広間などで行う格式高い茶の湯の点前で用いる棚です。本作は、黒漆塗に金蒔絵で模様を表した台子に、錫製の風炉と釜、水指、杓立、建水、蓋置、茶碗に、竹製の茶杓が揃いで一具となっています。毛彫りの技法で細かな文様が表された風炉や釜をはじめ、いずれも精緻に作り込まれています。



3 真千代の天児 一軀 (作品リストNO. 3)

高 44.1cm

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

井伊家13代直弼なおすけの4女真千代まちよ (1854~1904) の誕生に際してあつら 詔えられた天児あまがつ。

天児は、子どもに降りかかる災いや穢れけがを代わりに負わせる人形です。子どもの誕生とともに準備され、新しい着物は、いったん天児に着せて厄を払ってから、子どもに着せることも行われました。女兒の場合は、成長した後も、雛祭で飾りつけたり、輿入れの際に持参することもありました。



4 古今雛 一对 (作品リストNO. 10)

男雛 高 44.5cm

女雛 高 43.4cm

江戸時代末期

本館蔵 (藤野金七・林弥家伝来資料)

男雛と女雛の一对。公家風の衣装をまとう内裏雛だいりびなの一種で、江戸時代明和年間めいわ (1764~1772)に江戸の人形師原舟月はらしゅうげつが創始した古今雛こきんびなと呼ばれるものです。造作は、細部までよく整えられており、目元や口元、髪かみの生際などを描き出す柔らかな筆遣いは、制作者の確かな技量を感じさせます。



▲女雛



▲男雛